

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
豊かな人間性の育成 学び合い・磨き合う生徒の育成	1. 学力の充実 わかる授業の構築、基礎基本の確実な習得、学習習慣の育成、授業形態の工夫、基礎学力アップタイムの導入。 2. リーダー育成・仲間づくり 自主的・前向き・積極的に行動できる仲間づくり。ボランティア活動等、自主的に行動できる力の育成。 3. 生徒指導の徹底 生徒の気持ちを大切にす指導、社会に適應できる力の育成、善悪を判断する力の育成、校内研修の活用。 4. 人権教育の推進 いじめ・仲間はすれ・差別を許さない集団づくり 5. 適切な進路指導 職場体験・高校調べを通して、具体的な展望を持てる力の育成。将来を見通した進路決定ができるちからの育成。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】 (全国)</p> <p>国語A,B 数学A,Bについて全国平均と比べると正答率が低い。 特に国語B、数学Bの活用型の問題で正答率が低くなっている。 国語Aの漢字の読み書きに関する問題の正答率は全国に比べて同程度、または上回っているものが多い。 国語Bの文章を読んで自分の考えを書く問題は、全国に比べて低く、本校内でも他の問題に比べて正答率が特に低い。 数学Aについて基礎的な計算の問題は、全国を上回っている。 数学Bの活用型の問題では、特に数学的な表現で説明したり、証明したりする問題で全国を大きく下回っている。</p> <p>(県)</p> <p>国語・社会については県平均を上回り、数学・理科については下回っている。 全教科について活用型の問題の正答率が県平均に比べて低い。 国語については「漢字の読み書き」についての正答率が県平均よりかなり高く、続いて「読む能力・言語についての知識・技能・理解」が県平均を上回った。一方で、「書く力」が県平均を大きく下回った。 社会については基礎的な知識を問われる問題では県を上回っているが、活用型の問題の正答率が低い。特に我が国の歴史や産業に関する問題を苦手としている。 数学については、「数量関係」「図形」については県を上回っているが、活用する力に課題がある。 理科については活用問題の正答率が県平均を大きく下回っており、特に「根拠をもとに表現する」問題の正答率が低い。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>家庭での学習時間(1時間以上)の割合は、県に比べて少ない。 家庭学習をまったくしない割合は、県に比べてかなり低い。 学校の授業の復習をしている生徒の正答率が高く、学力との強い相関がみられる。 テレビやビデオ・DVDを視聴する時間(2時間以上)の割合は、県に比べてかなり高いが、全く視聴しない割合も高い。 ふだんゲームをする時間は、県に比べて長く、平日4時間以上にわたってゲームをしている割合もかなり高い。 ふだん読書をする時間は、県に比べてかなり短く、全く読書をしなない割合が最も多い。 あいさつについては、しているという生徒の割合が県を大きく上回っている。 自分にはよいところがあると答えた生徒の割合が県に比べて低く、あてはまらないと答えた生徒の割合が多い。 学校のきまりを守っていると答えた生徒の割合は県に比べてかなり低い。 いじめはいけない、人の気持ちがわかる人間になりたいと思うと答えた生徒の割合は、県を上回っているが、人が困っているときは、進んで助けていると答えた生徒は下回っている。 住んでいる地域の行事に参加していると答えた生徒の割合は、県に比べてかなり高い。 ものごとを最後までやりとげて、うれしかった経験があると答えた生徒は経験がないと答えた生徒に比べ、正答率が高い傾向にある。 携帯電話について、正答率が高い生徒ほど所持率が低く、正答率の低い生徒ほど所持率が高いという相関がみられる。</p>

成果と課題	課題に対応した改善方法
<p>全教科について活用型の問題に課題がある。 文章で解答する問題については、どの教科も正答率が低く、無回答が多い。 国語・数学・社会については、好きと答える生徒の割合が多く、前向きに取り組む姿勢が伺えるが、理科については、将来役に立つと思っているものの、苦手と感じている生徒が多い。学習方法や教材等の見直し、改善が必要である。 人権感覚や人権意識は育っているが、実際の行動になかなかつながらない傾向が見られる。 H23年度、保護者向けの「家庭学習啓発資料」を作成し、学習習慣の定着を図る取り組みを行った。また、小中連携で春休みに家庭学習定着に向けた入学前の課題に取り組んだ結果、家庭学習を全くしないという生徒の割合が減っている。特に、1年生では、家庭学習を全くしない生徒は0となっている。 テレビやビデオの視聴時間、ゲームをする時間、携帯電話の利用時間等が多く、家庭学習の時間の妨げになっている。また、携帯電話のトラブルで学習に集中できないといったことも増えてきている。</p>	<p>成績上位者は、読書時間が多いという結果から、全教科に必要な読解力・表現力の向上を目指して積極的に読書活動を推進していきたい。従来の朝読書の内容の見直しや図書委員会とタイアップした図書館利用の取り組みも進めたい。 学校全体で、学習形態をコの字型にしたり、グループにしたりしながら生徒同士が学び合える授業を展開していく。 授業改善を図る中で、学力と同時に生徒同士のつながりを深め、自己表現したり、状況に応じた声かけができるコミュニケーション能力の育成に努めたい。 今後、家庭学習の質(時間、内容等)を上げるため、教科を横断して全教科についてまとめた冊子を作成し、家庭に配布したい。 地域と連携してノーメディアデーに取り組み、時間を有効に使い、生活リズムを整えるよう意識付けを図りたい。</p>

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
<p>授業・家庭学習の状況についての生徒アンケートの実施(7月・12月) 生徒へのたしかめテストの実施(2学期以降) 学校評価アンケートの実施(11月) ノーメディアデーの取り組み振り返り(10月) 上記の結果を検討・分析し、改善方法の見直しを図る。</p>	<p>全教科の基礎の問題の平均正答率が県平均と同等もしくは上回る。 家庭学習の時間が1時間以上の生徒の割合を上げ、30分より少ない生徒の割合が県の平均を下回る。 授業アンケートで「授業が楽しくない」と答える生徒の割合を全教科5%以下を目指し、(現在10%以下)全員がそって授業を受ける体制をつくる。</p>